

		登録No.	1698		
名称	コンクリートポンプ専用 先行モルタル剤 スリック・パワーモルタル		収受受付年月日	令和2年1月16日	
			変更受付年月日		
副題	コンクリートポンプでのコンクリート圧送初期におけるパイプの詰まりを低減するための特化した先行モルタル剤		開発年	2017年	
区分	☐ 1. 工法 ☐ 2. 機械 ☒ 3. 材料 ☐ 4. 製品 ☐ 5. その他			番号： 3	
分類	1-1-6. 共通工／コンクリート工				
キーワード	☒ 1. 安全・安心 ☒ 5. 公共工事の品質確保・向上 ☒ 2. 環境 ☐ 6. 景観 ☐ 3. 情報化 ☐ 7. 伝統・歴史・文化 ☒ 4. コスト縮減・生産性の向上 ☐ 8. リサイクル			1	
				2	
				4	
	番号：			5	
国土交通省への登録状況	申請地方整備局名	登録年月日	登録番号	評価（事前・事後）	
	近畿地方整備局	平成31年2月18日	KK-180050-A		
開発目標（選択）	☒ 1. 省人化 ☐ 5. 耐久性向上 ☒ 9. 地球環境への影響抑制 ☐ 2. 省力化 ☐ 6. 安全性向上 ☒ 10. 省資源・省エネルギー ☒ 3. 経済性向上 ☐ 7. 作業環境の向上 ☒ 11. 品質の向上 ☐ 4. 施工精度向上 ☒ 8. 周辺環境への影響抑制 ☐ 12. リサイクル性向上			1	10
				3	11
				8	
	番号：			9	
活用の効果	従来技術名：		コンクリート圧送における先行モルタル		
	1. 経済性	☒ 1. 向上（74.21%） ☐ 2. 同程度 ☐ 3. 低下（ %）	番号：	1	74.2%
	2. 工程	☐ 1. 短縮（ %） ☒ 2. 同程度 ☐ 3. 増加（ %）	番号：	2	0.0%
	3. 品質・出来型	☐ 1. 向上 ☒ 2. 同程度 ☐ 3. 低下	番号：	2	
	4. 安全性	☒ 1. 向上 ☐ 2. 同程度 ☐ 3. 低下	番号：	1	
	5. 施工性	☒ 1. 向上 ☐ 2. 同程度 ☐ 3. 低下	番号：	1	
	6. 環境	☒ 1. 向上 ☐ 2. 同程度 ☐ 3. 低下	番号：	1	
	7. その他	☐ 1. （定義済みの値なし）	番号：		
開発体制	☒ 1. 単独 ☐ 2(1) 共同研究(民民) ☐ 2(2) 共同研究(民官) ☐ 2(3) 共同研究(民学)			番号：	1
開発会社	株式会社 ケミウスジャパン	販売会社	静岡新晃株式会社	協会名	
問合せ先	技術	会社名：	株式会社ケミウスジャパン		
		住所：	兵庫県神戸市北区道場町塩田2303-2		
		担当部署：	技術部		
		TEL：	078-985-0039		
		FAX：	078-985-0036		
	営業	担当者名：	豊原 辰文		
		住所：	静岡市清水区駒越西 2丁目8-4		
		TEL：	054-334-9740		
		FAX：	054-335-5141		
		mail：	s-shinkou@ma.tnc.ne.jp		
(概要)	1) 何について何をする技術なのか？ コンクリートポンプ車打設における先行モルタル本技術はコンクリートポンプでのコンクリート圧送初期におけるパイプの詰まりを低減するための特化した先行モルタル剤です。				
	2) 従来はどのような技術で対応していたのか？ 従来は先行水とコンクリート強度と同強度のモルタル(0.5～2.5m3)をパイプ内に先行圧送させ、パイプ内を潤滑させていました。本技術を活用することにより、コスト削減、CO2削減、産廃物の大幅削減が期待出来ます。				
	3) 公共工事のどこにてきようできるのか？ 本技術は全てのコンクリートポンプ打設工事に適用可能です。				

新技術概要説明資料（2／5）

新技術名称

コンクリートポンプ専用 先行モルタル剤 スリック・パワーモルタル

登録No.

1698

(特 徴)

(長 所)

・コンクリートポンプ専用に特化した先行モルタル剤、流動性も強度も確保し、使い勝手がとても良く、非常に練り易く、作成が簡単で現場作成・使用、持ち運び保管にも便利なコンパクトサイズ

・高粘性、高流動、高強度、材料分離低減に設計、先行水使用は可能だが先行水がなくてもOK、廃棄量93%、CO2 94.2%、コスト74.2%削減のエコ商品である（ブーム打設3袋使用時）

(短 所)

特になし

(施工方法)

・使用袋数は打設状況（配管距離）等により決定する。

【作成方法】

- ①ペール缶にスリック・パワーモルタル1袋につき、水4.5リットル目盛りまで入れる
- ②スリック・パワーモルタル1袋投入
- ③スコップを突き立て手首を左右に回転するだけでOK（混ぜる道具は何を使っても、例えば現場にある栈木でも可）
- ④作成完了

【使用方法】

従来モルタルの使用と同じ

(施工単価等)

☐ 1(1). 歩掛りあり（標準） ☒ 1(2). 歩掛りあり（暫定） ☐ 2. 歩掛りなし

1(2)

掲載刊行物

建設物価（有 ・ 無） 掲載品（ ）

積算資料（有 ・ 無） 掲載品（ ）

その他（カタログなど）

（ ）

スリック・パワーモルタル 1袋 1,800円

積算資料等

ブーム打設3袋使用時

スリック・パワーモルタル18kg×3袋と水13.5リットル、廃棄処分費含む。

本技術の施工単価は5,964円です。

施工管理基準資料等

品質保証マニュアル

月別品質保証（2018.2～）

新技術概要説明資料（3／5）

新技術名称	コンクリートポンプ専用 先行モルタル剤 スリック・パワーモルタル		登録No.	1698
（適用条件） （適用できる条件） ①自然条件 強風、強雨、積雪の場合は施工しない。気温0℃～40℃位まで使用可能 ②現場条件 スリック・パワーモルタルを作成するのに、長1m×幅1m＝1m²のスペースが必要 ③適用範囲 全コンクリートポンプ打設に適用				
（適用できない条件） 特になし				
（設計上の留意点） 使用目安：ブーム打設 スクイーズ式ミニコンクリートポンプ車：1～2袋（0.0117m³～0.0234m³） ピストン式コンクリートポンプ車：1～5袋（0.0117m³～0.0585m³）				
（施工上・使用上の留意点） 吐出されたスリック・パワーモルタルは廃棄 廃棄方法は残痕コンクリートの廃棄方法に準ずる 維持管理等 涼しい場所や風通しの良い場所に保管 熱と発火の恐れのある場所、酸などの危険物のある場所は避け保管する				
（残された課題と今後の開発計画） 特になし				
（実験等作業状況） ・スリック・パワーモルタル物性検査 ・スリック・パワーモルタルと先行モルタルの比較物性試験 ・ドライモルタルの比較物性試験				
（添付資料） 実験資料等 ・スリック・パワーモルタル物性検査 ・スリック・パワーモルタルと先行モルタルの比較物性試験 ・ドライモルタルの比較物性試験				
その他 参考文献 ・建築工事標準仕様・同解説JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2015 第7章7.4（6）				
特 許	☐ 1. 有り（番号： ） ☐ 2. 出願中 ☐ 3. 出願予定 ☒ 4:無し		番号	4
実用新案	☐ 1. 有り（番号： ） ☐ 2. 出願中 ☐ 3. 出願予定 ☒ 4:無し		特許番号	
			新案番号	4
評価・証明	建設技術評価制度番号	民間開発建設技術の審査証明番号		
	証明年月日	証明年月日		
	平成30. 7. 4			
	制度等の名称	証明機関		
	（財）日本建築総合試験所			
	制度等の名称	制度等の名称		
その他の 制度等による証明	制度名、番号	制度名、番号		
	証明年月日	証明年月日		
	証明機関	証明機関		
	証明範囲	証明範囲		

新技術概要説明資料（４／５）

新技術名称		コンクリートポンプ専用 先行モルタル剤 スリック・パワーモルタル			登録No.	1699
施工実績	実績件数	公共機関:	12	民間:	19	
	発注者	施工時期	工事名		CORINS登録No.	
	西日本高速道路株式会社	H30.7.1～ H33.1.16	阪和自動車道みなべ高架橋2橋(PC 上部工)工事			
	合同会社銀座8丁目プロジェクト2	H30.2～R2.3	(仮称)中央区銀座8丁目プロジェクト			
	愛知県西三河	H29.11.20～ H30.3.20	急傾斜地崩壊対策工事(防災・安全)			
	東日本高速道路株式会社	H27.4.23～ R2.11.21	横浜環状南線 桂台トンネル工事			
	学校法人大正大学	H31.3.1～ R2.7.31	大正大学8号館建替計画			
	愛知県警察本部施設課	～R2.6.30	西尾警察署庁舎建設工事			
	広島県 土木建築局 営繕課	H31.3.5～ R4.2.18	広島県庁舎本館等耐震改修及び維持保全工事			
	国土交通省東北地方整備局 三陸国道事務所	H29.11.29～ R1.9.30	国道45号堀内地区道路工事			
	北関東防衛局	R1.2.1～ R2.11.30	市ヶ谷赤城元町宿舎建替事業			
	近畿地方整備局 兵庫国道事務所	H31.4.12～ R2.3.31	名塩道路名塩木之元地区他整備工事			

新技術概要説明資料 (5 / 5)

新技術名称		コンクリートポンプ専用 先行モルタル剤 スリック・パワーモルタル		登録No.	1698
					
スリック・パワーモルタル 1袋 18kg		練り混ぜ用ペール缶 (24L)			
					
パワーモルタルを水で溶き、スコップで練り混ぜ		T字管またはホッパーよりパワーモルタルを投入			
					
生コン投入		吐出パワーモルタル廃棄後、打設開始			